

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773400318		
法人名	福)好老会		
事業所名	グループホーム ひかり		
所在地	大阪府藤井寺市惣社2丁目5-15		
自己評価作成日	平成23年4月30日	評価結果市町村受理日	平成23年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階
訪問調査日	平成23年5月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お年寄りへの尊厳と親しみの心を私達は「好老」と呼びます。人間の尊厳・プライバシーを守り、常に良質なサービスを提供し、安心・安全社会の創造に貢献するため、誠意を持って生活の質を高めるよう努めています。ハード面ソフト面の両面において併設特養の経験や理論が活かされるよう努力しています。空調・採光は最大限に自然を取り入れ、廊下・居間の広さは落ち着いた豊かさを保ち、住み慣れた住居との差を少なくし利用者の皆様もゆったりと穏やかに暮らしていただいております。家族の訪問も多く、親しみと信頼関係が築かれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

藤井寺市の閑静な住宅地の一角に、社会福祉法人「好老会」の施設群があり、その内の一つが「グループホームひかり」である。平屋一戸建ての事業所は、天井が高く天窓がついている。やわらかな日差しがさし、自然の風が通り抜けている。開放的な広い庭にはお花畑があり、果樹園があり、野菜がビニールハウスで栽培されている。それを利用者と職員が共に役割分担をしながら管理をしている。門は日中開放されていて、時には近隣の人が入ってきてベンチで憩う姿が見られる事もあると聞く。利用者はとにかく明るい、笑い声が絶えない。食事の調理や準備も共に楽しく行っている、ごく普通の家庭的な風景が見られた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員は常々地域密着型の意義、役割をもとに人の尊厳・プライバシーを守り常に良質なサービスを提供し生活の質を高め安心・安全社会の創造に貢献している。	地域密着型サービスの意義や役割を考えながら職員全員で作らあげた事業所独自の理念を、日々のミーティングや職員会議で確認しながら実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の一員として活動し、地域の行事(スポーツ大会、祭り、盆踊り大会)等にも参加、当法人の主な行事に地区地元の方々を招き積極的な交流をはかっている。	地域住民の一員として町会に加入し、地域の行事に参加するだけでなく、日常的に双方向で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践、実績を活かし、認知症高齢者介護について地域の方々に理解を強めていただく様発信し啓発活動に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多種の意見交換を通じ、新たな取り組みを見出しサービスの向上に努めていきたい。	利用者、利用者家族、地域住民、市職員、事業所職員等のメンバーで構成されており、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員さんを通じ市担当者より常に熱心に助言等を受けることができ、運営に活かす努力をしている。	市担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みについて、折に触れ伝えると同時に事業者連絡協議会の施設部会の加入など、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について研修を重ね、常に尊厳を守る様にしている。又居室、玄関等鍵はあるが施錠はしていない。安全を考慮し玄関の自動ドアには開閉チャイムを付けている。	管理者および職員は身体拘束が利用者に及ぼす弊害を十分理解し、事業所の出入り口をはじめ法人の施設内全てが開放され、利用者の極く普通の生活風景が見られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議・施設内研修又は府主催等の研修により虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人評議員の中に事業制度に携わる方がおり、学習はさせていただいているが活用されている利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時には十分利用者・家族との話し合いを持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人に第三者委員の設置があり、苦情箱の利用を促し、苦情についての対応ができるようにしている。苦情の処理については内容、今後の対応を事業所内に提示し、公開できるようにしている。	苦情相談窓口や意見箱を設け利用者家族等の意見を積極的に聞くようにしている。それらの意見は、職員会議で話し合い、運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員は意見、提案を常に管理者に相談する機会があり、全体で話し合い反映し介護支援に努めている。	事業所の運営方法について、毎月行われる職員会議の中で意見要望を出し合って運営改善を行っているが、課題がある時は何時でも都度、招集し会議を行うようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	積極的な意見、発案、計画をできる限り考慮し実践し、自主的かつ意欲を持続出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事項内容により年間計画をたて、法人内外の研修を受ける機会を設けている。又それが日々の業務に活かされるよう指導をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の事業者連絡協議会に加入、複数施設団体による連携・ネットワーク化を図ると共に同業者との交流の機会や施設見学の機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に事情をよく聴取し、できる限りの支援をするよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談時に事情をよく聴取し、支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという尊敬の念を持ち、共同生活の中での支援であるという根本的な考えのもと、家族的な雰囲気の中での生活を大切にしながら共に信頼関係を築き介護に当たっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を主体とし、家族と共に援助し、職員は介護分野の専門的な知識・技能をもつ者としての立場にあると考え支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限り努力している。	日々の散歩の中から利用者の馴染みの店を覗いてみたり知人の家へ立ち寄るなど、色々散歩の経路を工夫しながら、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いに理解し合い協力し楽しく暮らせるよう、見守り助言をしている。よい関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院加療の必要があり契約終了された家族さんも継続的にしばしば現状報告又相談に来所されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に応じ考慮している。	利用者本人が何処でどのように暮らしたいか、一人ひとりの希望や意向は毎日の関わりの中で聞き出すようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される時の聞き取り、ケアマネからの情報は十分に収集し、職員共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は個々異なるが、共同で作業する時も一人ひとりの有する残存機能を考慮し、見守り援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人・家族・介護職員・併設施設の看護職員・医師・栄養士等他者の意見も多く取り入れ作成している。	介護計画の期間は一応6ヶ月としているが、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、変化が起きた時にはそのつど臨機応変に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は細やかに取り、情報を共有し計画作成の根拠としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の多機能性を十分に活かし支援している。(在宅介護、施設介護、相談援助事業)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事項に則した他機関を利用し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所されると主治医が併設施設診療所Drとなる。又かかりつけ医も協力病院のDrとなることが多いが、本人が適切な医療が受けられることができるよう支援している。	受診は本人や家族等との話し合いの上、殆どは法人の診療所医をかかりつけ医としているが、馴染みのかかりつけ医の受診も家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護職員による健康管理をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先病院の地域医療相談室の職員と連携をとり、支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期、不定期の家族との面談の折、今後のケアについて又意向については話し合うようにしており、安心して暮らせるよう支援している。又変化に伴い併設施設の利用も考慮し、事前に準備できるよう対応している。	利用者が重度化した際の看取り指針を作成し、事業所が対応しうる最大のケアについて本人や家族等に説明しながら、関係者と共に支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修をし異変時、緊急時対応マニュアルに従い速やかに対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施、町会の方々にもご理解いただき、協力を得られるようにしている。地域の方々にも訓練に参加していただけるよう働きかけている。	災害時における避難訓練や消防訓練を、利用者と共に町会の方々の協力を得ながら、年に2回行っている。災害に備えた備蓄備品もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報については各媒体による取り扱いに細心の努力をしている。又個々の誇りを尊重し、プライバシーを損ねることのない言葉遣いに心がけている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう、目立たずさりげない言葉掛けや介助が見られる。個人ファイルはスタッフルームの書庫に施錠して保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんど全員の方が依頼心が強く、職員に一任されてしまう傾向にある現状であるが、意思決定を促す声掛けに心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度のきまりの中、個々が自由に暮らせるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は決まった美容院があり家族と共に外出し楽しんで行かれていた方がおられたが、今はほとんどの方が月1度の訪問美容を各自利用され、お出掛け時にはお化粧品もされ身だしなみには気をつけておられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生活の中でも重要な食事は最も楽しいひとときです。個々の能力を活かし、役割を持つことで生活にも「ハリ」が出、「活力」にもなると考えているので準備から後片づけに至るまで一緒に行っている。	食事のメニューは利用者の好みを聞きながら、調理から下ごしらえ、配膳後片づけを利用者と職員が共に行い、家庭的で楽しく食事ができる雰囲気作りがされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立による栄養バランスについては栄養士による指導を受けている。水分量のチェックをし、十分確保できていない方への対応に心がけ(好みの味のもので量を調節)、声掛けによる促し等行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回歯科医のチェックを受け、口腔ケアに努めている。食後・おやつ後の歯みがき、うがいの声掛け、確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンにより声掛け、見守り、介助、支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく一人ひとりをトイレ誘導するなどして、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	併設施設看護職員による健康管理、併設施設管理栄養士による栄養管理、又介護職員にできる対応の指示により予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	レクリエーションやおしゃべりを止めないような個々のタイミングを見計らって声掛けをしながら入浴・足浴を交互に行っている。	入浴と足浴を交互にしながら入浴時間は職員が一方的に決めてしまわず、利用者のこれまでの生活習慣に合わせた入浴が楽しめるよう個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の取り方は各自異なるので、利用者に応じた見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を作成し、主治医・看護師指導のもと目的、用法、用量等、職員が理解把握できるよう実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り在宅生活に近い型で見守り支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外への散歩は積極的な声掛けをし日常的に行っている。	事業所の建っている法人の敷地内を主として毎日の散歩に利用している。敷地内にある果樹園や菜園の手入れをしたり、時には近くの公園まで行くなど自由に外気に触れる機会を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	保管、管理は預かり金サービスの規程により施設によって行われているが月1回の訪問理美容時には併設施設まで行き、理美容後、各自職員の付き添いのもと支払をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体の状況が把握できる様死角の少ない設計で天井が高く開放感があり天窓より自然光を取り入れている。花壇・野菜畑・果物畑がある。	居間は天井が高く天窓がある。天窓からは自然の光や風を採り入れてあり、明るく非常に爽やかである。また、事業所の開放的な庭には花畑があり利用者が憩うためのテーブルやベンチも用意されるなど、色々なところに利用者が居心地よく過ごせる工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆとりのあるスペースがあり、安全で自由な行動や居場所が確保されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中に畳3畳を配置し、住み慣れた家庭との違和感がないよう配慮している。	居室は、利用者の使い慣れた家具や家族の写真など、思い出の品々が持ち込まれ利用者が居心地良く過ごせる配慮がされている。畳が配置されているのも、より落ち着いた雰囲気を出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	理解できること、できないことの見極めをし、導入部分の援助をし見守り、個々の自立を図っている。		